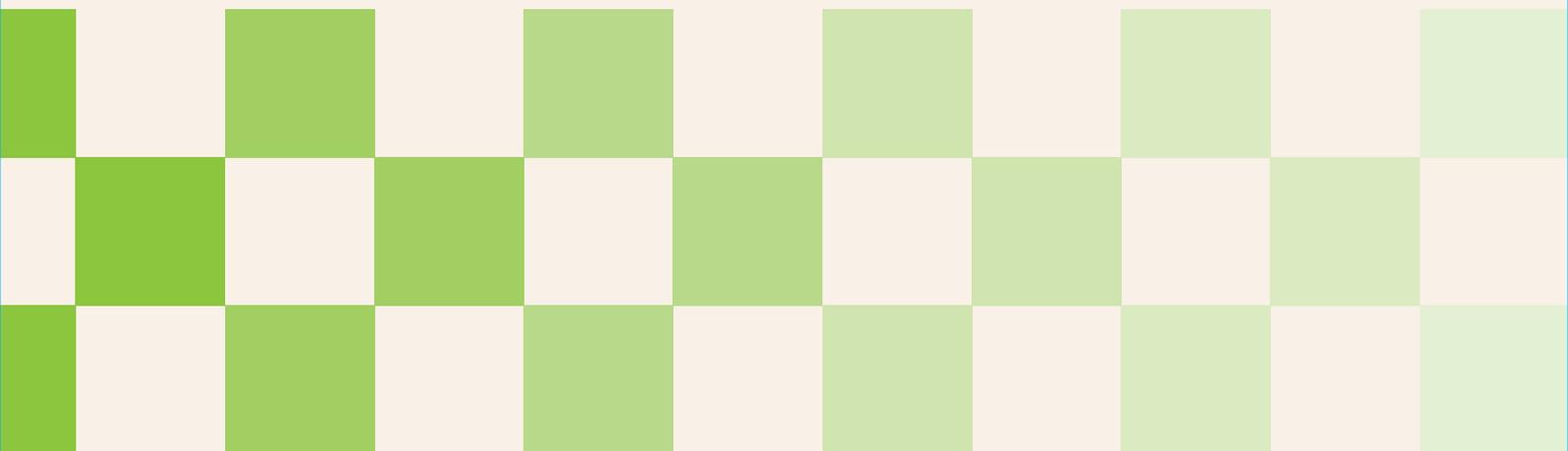


環境に配慮したサステナブル MICE 京都ガイドライン



KYOTO
TRADITION MEETS INNOVATION

Kyoto Convention & Visitors Bureau

京都市・公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー

目次

第1章 はじめに	01
第2章 ガイドラインの概要	01
第3章 サステナブル MICE の定義とその実践により目指す姿	02
1. 本ガイドラインにおけるサステナブル MICE の定義	02
2. サステナブル MICE の実践により目指す姿	02
第4章 MICE における環境負荷の把握とその対策	03
1. MICE 開催にかかる各段階の環境負荷	03
2. 脱炭素に取り組むプロセス / アプローチ	06
第5章 サステナブル MICE に向けたアクションリスト	07
1. 企画・立案のアクションリスト	07
2. 準備のアクションリスト	07
3. 設営・施工のアクションリスト	09
4. 運営・撤去のアクションリスト	09
5. 会期後のアクションリスト	10
第6章 サステナブル MICE の実践事例の紹介（2023～24年度実績）	11
1. コングレスバッグ（伝統産業製品）やエコバッグの作成・配布	11
2. マイボトル・マイ箸等のリユース食器の作成・配布	11
3. ペーパーレス化の取組支援による紙の使用削減	11
4. カーボン・オフセット	12
参考文献	13

第1章 はじめに

これまで京都市は、(公財)京都文化交流コンベンションビューローと共に、日本のMICE誘致を牽引する『グローバルMICE都市』として、国連主催の会議をはじめとする国際会議の開催を実現するなど、MICEの振興に積極的に取り組んできました。

2023年3月、(公財)京都文化交流コンベンションビューローでは、「環境に配慮したMICE開催(特に国際会議)に係る調査」を実施し、サステナビリティの中核をなす環境分野の中でも特に「脱炭素」に焦点を当てた国内外の先進事例を把握するとともに、国際会議の開催時におけるCO₂排出量の推計手法や、京都が目指すべき環境に配慮した国際会議像を構築するに当たっての視点を検討しました。

また、国が進める「脱炭素先行地域」に選定された京都市は、「京都の文化・暮らしの脱炭素で地域力を向上させるゼロカーボン古都モデル」の創出を目指し、同年3月に京都市脱炭素先行地域推進コンソーシアムを設立しました。その取組の一環として、事業者、団体、大学等の関係者の皆様と共に、国際文化観光都市にふさわしい脱炭素修学旅行をはじめとしたサステナブル・ツーリズムを推進することとしました。

地球規模で進む気候変動をはじめとした環境課題に対して、様々なステークホルダーの皆様と共に対策の強化を進める中で、MICE分野においても環境に配慮した取組が一層求められています。この度、京都市脱炭素先行地域推進コンソーシアムのサステナブル・ツーリズムワーキンググループでの議論を踏まえ「環境に配慮したサステナブルMICE京都ガイドライン」を作成しました。

併せて、(公財)京都文化交流コンベンションビューローのウェブサイトでは、本ガイドラインのほかにも、ISOやCASBEE(※)などの環境への配慮やサステナブルに関する国際認証等を満たした事業者を紹介した「サプライヤーリスト」と、「MICE開催に係るCO₂排出量計算ツール」を公開していますので、ご活用ください。

(※) 一般社団法人日本サステナブル建築協会が実施している建築物の環境性能を総合的に評価するシステム

サプライヤーリスト及びMICE開催に係るCO₂排出量計算ツール
<https://meetkyoto.jp/ja/co2-emission-calculator/>



第2章 ガイドラインの概要

本ガイドラインは、国際会議等をはじめとしたMICEの主催者を対象に、会議等毎の特性や状況・課題に応じて、サステナブルなMICEの開催を目指す上で、必要となる脱炭素等に関する考え方やアクションを整理し、まとめたものです。

第3章では、サステナブルMICEの定義とその実践により目指す姿を記載しています。

第4章では、MICE開催に当たり「企画・立案」から「会期後」まで5つの段階に分類し、発生し得る環境負荷とそれに対する考え方や対策などを紹介しています。

また第5章では、環境負荷を軽減するために主催者が取り組むべきアクションをリスト化し、様々な会議等に合わせた適切なアクションを紹介しています。

最後の第6章では、2023年以降に京都市域で開催した環境に配慮した会議等の実践事例を紹介しています。

第3章 サステナブル MICE の定義とその実践により目指す姿

1. 本ガイドラインにおけるサステナブル MICE の定義

京都には、1200年を超える悠久の歴史の中で培われてきた自然と共生する文化が息づいており、「もったいない」や「しまつのころ」(※)を大切にする精神が受け継がれてきました。

古くからサステナビリティの精神が存在し続けてきた京都では、MICE分野においても、持続可能性を重視し、脱炭素の取組や地域貢献等のSDGsに資する活動を推進する主催者に対する支援制度を全国に先駆けて創設するなど、先進的な取組を進めてきました。

本ガイドラインで位置付ける「環境に配慮したサステナブルMICE」は、脱炭素・資源循環型社会の形成、生物多様性の保全などの環境分野に留まらず、京都らしい文化の分野にまで配慮した製品やサービスを選択していただくものとしています。

(※)「しまつのころ」とは、いのちや資源、それを活かす作り手の方々への感謝のころから生まれてくる考え方であり、「無駄遣いしない」、「儉約・節約する」という意味で用いられます。生産から廃棄のことまで考えて、良いものを長く使うようにすることや季節の食材を余すことなく使い切る京都の食文化などにも息づいています。

2. サステナブル MICE の実践により目指す姿

本ガイドラインの活用を通じた取組の拡大を通じて、CO₂の排出量削減、資源循環型社会の形成、生物多様性の保全、伝統文化の保全・継承、MICE参加者の満足度及び主催者の社会的価値の向上を図ることによって、持続可能な社会の構築に貢献することを目指しています。

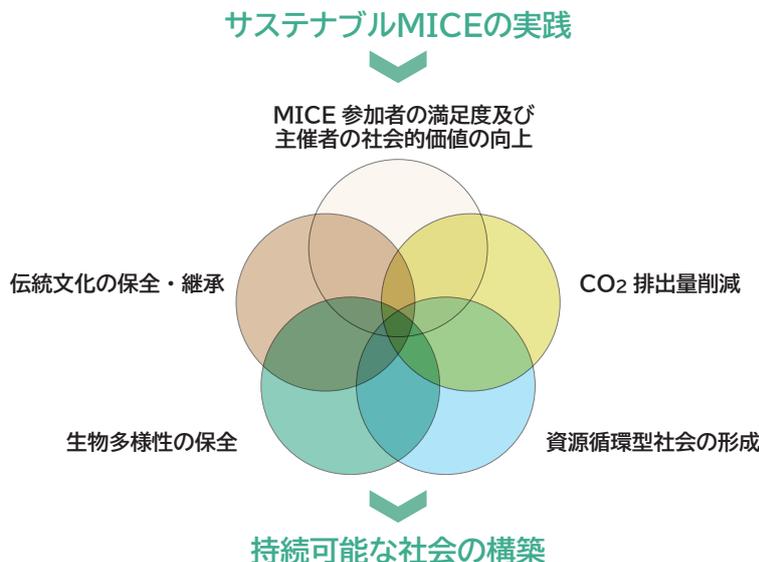


図.サステナブルMICEの実践により目指す姿

第4章 MICEにおける環境負荷の把握とその対策

1. MICE開催にかかる各段階の環境負荷

MICEを開催するためには、その「企画・立案」、「準備」、「設営・施工」、「運営・撤去」の各段階において、多くの物品・サービスの調達が必要となります。調達に当たっては、各段階に係るCO₂排出量などの環境負荷を把握した上で対策を行うとともに、「会期後」には点検・評価を行い、将来のさらなる改善へと繋げていくことが重要です。



図.MICE開催にかかる各段階の流れ

(1) 企画・立案

企画・立案段階では、基本(実施)計画の立案や会場・宿泊施設の選定において、以下のような検討を行うことが重要です。

ア) 基本(実施)計画立案

基本(実施)計画の立案に当たっては、環境配慮に関する方針をMICE主催者自らが設定した後、『環境負荷の把握・特定』を行い、第5章を参考に具体的な取組事項を決定することが重要です。また、『サプライチェーンマネジメントの導入』や『カーボン・オフセット(※)の活用』についても、検討してみましょう。会議等の運営を委託する場合には、環境への配慮等に関する国際認証等を取得している事業者を選定することが有効です。

加えて、京都ならではの取組として、開会式やレセプション等に、地域の魅力発信や文化の継承にもつながる京都らしい文化プログラム(舞、和太鼓、茶道、着物着付、座禅体験等)の採用も検討してみましょう。

(※)カーボンオフセット:自らの温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない排出量の全部または一部を、他の場所での排出削減・吸収量でオフセット(埋め合わせ)すること。

【想定される環境負荷例】

- 開催時期・期間・参加者数等に応じたエネルギー等の使用に伴う環境負荷

イ) 会場・宿泊施設の選定

会場・宿泊施設によって、サステナビリティに関する取組状況は異なり、その選択は環境負荷にも大きく影響します。会場選択が可能な場合は、環境配慮への取組が優れた会場を選定することを検討しましょう。

参加者等の宿泊施設を指定する場合や懇親会等でホテル等のバンケット会場を使用する場合はサプライヤーリストを参考に、国際認証等を受けた環境配慮に優れた施設を選定しましょう。

また、観光庁では、会議やレセプション開催時に、歴史的建造物等の特別感や地域特性を演出できる施設をユニークメニューとして活用する取組を推進しています。歴史的建造物等で会議等を開催することは、参加者へのホスピタリティーや歴史文化への理解、地域の魅力発信を促進するだけでなく、文化財の維持・修復への経済的な好循環を促すことに繋がります。

【想定される環境負荷例】

- 会場・宿泊施設の利用に伴う環境負荷(エネルギー等の使用、公共交通機関の状況等)

(2) 準備

準備段階では、必要な物品等の調達において、エコマーク商品などのグリーン購入を推進することや、廃棄物の削減を図るために、リース・レンタル用品を活用することが重要です。

会議等全体の環境負荷の低減のためには、参加者・関係者等の取組も重要であり、協力を得たい事項に関する事前の情報提供も有効です。

また、記念品やコンgresバッグ等を作成する際は、京都の伝統産業製品を選択肢としてご検討ください。参加者の満足度向上だけでなく文化の継承にもつながります。

【想定される環境負荷例】

- 物品・資材等の調達に伴う環境負荷
- 広報活動・展示物・資料等の作成に伴う環境負荷

(3) 設営・施工

設営・施工段階では、会場設営だけでなく、運搬・搬入等に係る環境負荷も低減することが重要です。機材の運搬・搬入を行う際には、エコカーを活用している事業者を選択することが有効です。

【想定される環境負荷例】

- 会場の設営に伴う環境負荷
- 物品・資材等の搬入に伴う環境負荷

(4) 運営・撤去

運営・撤去段階では、エネルギーや水の使用、飲食物の提供、廃棄物の排出等に伴う環境負荷の最小化に努めることが重要です。参加者に対して環境配慮への取組に協力するよう呼びかけることも有効です。廃棄物の排出に当たっては、廃棄物の減量化、リユース・リサイクルに取り組みましょう。

【想定される環境負荷例】

- エネルギー（電気・ガス・石油燃料等）の使用に伴う環境負荷
- 水の使用に伴う環境負荷
- 参加者への配布物、飲食物の提供に伴う環境負荷
- 会場の撤収・展示物等の解体に伴う環境負荷
- 資材・物品等の搬出に伴う環境負荷
- 廃棄物の排出に伴う環境負荷

(5) 会期後

会期後段階では、基本（実施）計画に基づき、実施結果及び調達目標の達成状況に係る点検・評価を行うとともに、必要に応じ、次回に向けた改善について検討することが重要です。

点検・評価に当たっては、企画・立案段階において選定したアクションリストの項目などについて、取組の実施状況等の自己評価を実施することが有効です。その評価結果や改善内容を公表することにより、環境配慮の取組に関する事例の蓄積が図られ、将来の類似会議等の実施の際にも環境に配慮した開催が可能となります。

2. 脱炭素に取り組むプロセス / アプローチ

継続的な改善を図るためには、PDCAサイクルに基づいて実施することが重要です。PDCAサイクルを実行する上で、特に留意すべき点は以下の通りです。

- ✓ 現実的な計画立案：確実に実行できることから始める。
- ✓ 数値化：目標を数値化することで、進捗評価と改善点を明確化する。
- ✓ 定期的に見直す：最初に立てた計画をベースに評価を実施し、実現との乖離が出ていれば、修正を行う。

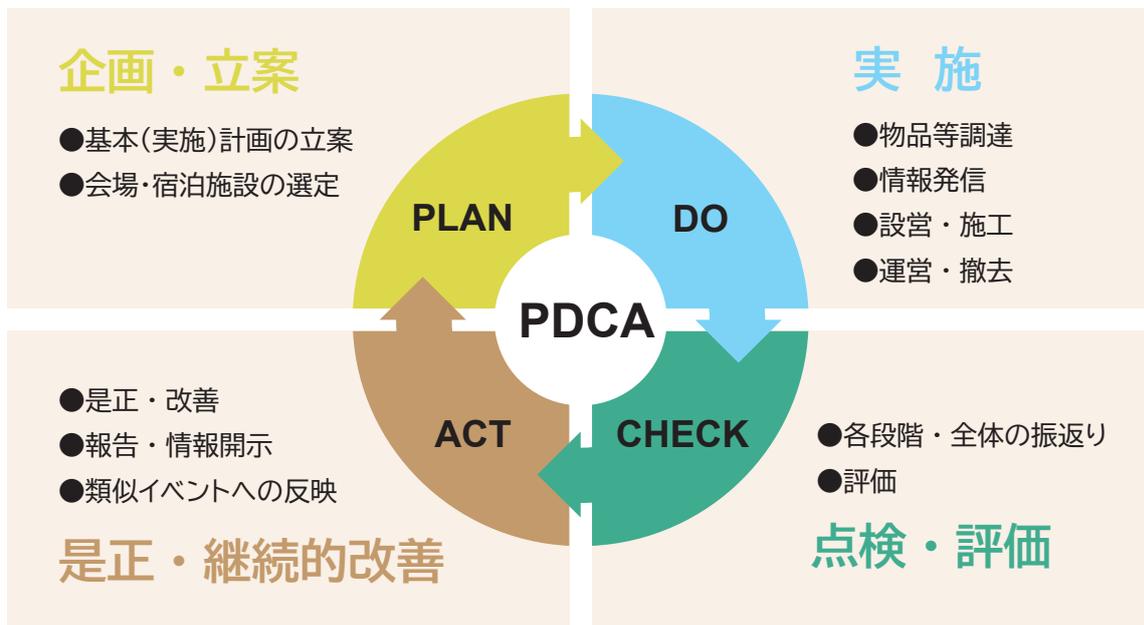


図 .PDCA サイクル

第5章 サステナブル MICE に向けたアクションリスト

会議等の主催者等が取り組むべき環境配慮の具体的な取組事項(アクションリスト)を列挙しています。これにより、各段階において環境負荷を低減するために必要な項目を確認することができます。

これらの項目は多様な会議等を網羅する内容となっており、各主催者が会議等毎の性質や特色(目的、開催地域、日程、規模、参加者等)に即した取組項目を選択することを想定しています。また、会議等終了後に実施状況の評価・点検も実施することで、後に続く別会議等の改善に活用するなど、継続的な改善が期待されます。

1. 企画・立案のアクションリスト

まずはココから!	<input type="checkbox"/>	基本(実施)計画を立案する際、各段階の環境負荷を把握する。
	<input type="checkbox"/>	環境配慮に関する取組内容を特定し、重視すべき環境配慮のテーマを決める。 (テーマ例:カーボンニュートラル、リデュース・リユース、リサイクル、生物多様性等)
	<input type="checkbox"/>	業務委託する場合は、環境への配慮やサステナブルに関する国際認証等を取得している事業者を選択する。
まずはココから!	<input type="checkbox"/>	準備体制の中で、環境配慮の責任者や担当者を配置する。
	<input type="checkbox"/>	『サプライチェーンマネジメント』の導入や『カーボン・オフセット』の活用を行う。
	<input type="checkbox"/>	会場の環境配慮の取組状況や人の移動に伴う環境負荷を考慮し、会場を選定する。
	<input type="checkbox"/>	宿泊先・懇親会の会場を推薦等する場合は、環境に配慮した施設にする。
	<input type="checkbox"/>	地域の関係者や外部組織等の協力が必要な場合、協力を要請する。

2. 準備のアクションリスト

	<input type="checkbox"/>	宿泊施設の利用が必要な場合は、環境に配慮した施設を選定する。
まずはココから!	<input type="checkbox"/>	会議等の準備従事者や協力会社に環境配慮方針を伝え理解と協力を求める。
まずはココから!	<input type="checkbox"/>	調達する物品等を選定する際、環境に配慮した製品を選定する。

<input type="checkbox"/>	発注先を決定する際、環境配慮に取り組む事業者を選定する。
<input type="checkbox"/>	会議資料や案内通知は、デジタル媒体を利用する。
<input type="checkbox"/>	印刷物・制作物・記念品等の必要性を精査して最小化を図る。
<input type="checkbox"/>	資料を印刷する際には、古紙パルプ配合率の高い紙や森林認証紙を利用する他、両面印刷や縮小印刷を行う。
<input type="checkbox"/>	記念品は、簡易包装など、省資源に配慮したものを選ぶ。また伝統産業製品の選択肢も検討する。
<input type="checkbox"/>	コングレスバッグを配布する場合は、後に繰り返し使える素材・耐久性・デザインにするとともに、再生材などの利用に配慮する。
<input type="checkbox"/>	エネルギー利用機器を使用する場合は、省エネルギー機器を導入する。
<input type="checkbox"/>	備品・什器・機器類、展示パネルや施工物等を調達する場合は、発注数量の最小化に努める。また再利用を想定したリース品やリサイクル品、再生資材を活用する。
<input type="checkbox"/>	ケータリングを手配する場合は、発注数量の最小限化に努める。また食材の生産時や輸送時にかかる環境負荷も考慮する。
<input type="checkbox"/>	地場の農産物や海産物、旬の食材、フェアトレードコーヒーなど持続可能性に配慮した食材や料理を提供し、参加者に情報提供を行う。
<input type="checkbox"/>	廃棄物は「2R」と「分別・リサイクル」のうえ、適正に処理する。
<input type="checkbox"/>	参加者にリユースできるカップや水筒を配布する、もしくは持参を呼びかける。
<input type="checkbox"/>	参加者や関係者に公共交通機関の利用を呼びかける。
<input type="checkbox"/>	シャトルバスやタクシーの手配では、エコカーを利用する。
<input type="checkbox"/>	開会式等において、京都らしい文化プログラムを採用する。また、その際、多言語による解説等により、内容が正しく参加者に伝わるよう工夫する。
<input type="checkbox"/>	環境配慮の方針とその取組内容をホームページ等で公表し、参加者に協力を促す。

まずは
ココから!

まずは
ココから!

まずは
ココから!

3. 設営・施工のアクションリスト

まずはココから!	<input type="checkbox"/>	宿泊施設の利用が必要な場合は、環境に配慮した施設を選定する。
	<input type="checkbox"/>	ケータリングを手配する場合は、発注数量の最小限化に努める。また食材の生産時や輸送時にかかる環境負荷も考慮する。
	<input type="checkbox"/>	廃棄物は「2R」と「分別・リサイクル」のうえ、適正に処理する。
まずはココから!	<input type="checkbox"/>	備品・什器・ケータリング等を輸送する際には、エコカーを利用する。
	<input type="checkbox"/>	会場間や周辺の移動に自転車を使用する。

4. 運営・撤去のアクションリスト

	<input type="checkbox"/>	エネルギーや水の利用は必要最低限に留める。
	<input type="checkbox"/>	宿泊施設の利用が必要な場合は、環境に配慮した施設を選定する。
まずはココから!	<input type="checkbox"/>	廃棄物は「2R」と「分別・リサイクル」のうえ、適正に処理する。
	<input type="checkbox"/>	ケータリングを手配する場合は、発注数量の最小限化に努める。また食材の生産時や輸送時にかかる環境負荷も考慮する。
まずはココから!	<input type="checkbox"/>	備品・什器・ケータリング等を輸送する際には、エコカーを利用する。
まずはココから!	<input type="checkbox"/>	会場の空調の温度設定を適正に行う(室内温度:夏 28℃、冬 20℃推奨)。ただし、夏季などは熱中症に留意しながら温度設定を行う。
	<input type="checkbox"/>	使用していない部屋の照明の消灯や空調のOFFを徹底する。
	<input type="checkbox"/>	リサイクルに配慮されたうちわや再使用可能な扇子を参加者に配布し、過度な空調の利用を減らす。ただし、熱中症には十分留意しながら取り組む。
	<input type="checkbox"/>	講師や参加者への飲料サービスは、繰り返し使える水差しやグラスを利用する。
	<input type="checkbox"/>	会場間や周辺の移動用に自転車を配置する(参加者の安全にも併せて配慮)。
	<input type="checkbox"/>	名札等、再利用できる配布物は回収する。
まずはココから!	<input type="checkbox"/>	ごみの削減等について、関係スタッフだけでなく参加者にも協力を呼びかける。
まずはココから!	<input type="checkbox"/>	クールビズ、ウォームビズ等について、関係スタッフだけでなく、参加者にも実行を呼びかける。

5. 会期後のアクションリスト

まずは
ココから!

- 環境配慮の取組について振り返り、成果を検証し、改善点を検討する。
- 定量目標については、環境負荷低減効果を算出して過去の実績等と比較する。
- 参加者の移動や会場使用などに係るCO₂排出量を把握し、カーボン・オフセットする。

まずは
ココから!

- 環境配慮の取組成果について関係者に共有する他、ホームページ等で公表する。

コラム MICEを通じた京都の持続可能な観光の創出

京都には国内外から年間約5000万人の観光客が訪れており、観光消費額は年間約1.5兆円以上となっています(令和5年京都観光総合調査)。一方で観光客が多数訪れることにより、一部の観光地の混雑や、文化・習慣の違いによるマナー違反等の観光課題が生じています。こうした課題に対して京都市では、観光事業者・従事者等、観光客、市民の皆様がお互いに尊重し合い、持続可能な京都観光を一緒に作り上げていくことを目的に、「京都観光行動基準(京都観光モラル)」を策定し、持続可能な京都観光を推進しています。

MICEにおいても、主催者による「京都観光行動基準(京都観光モラル)」の実践及び参加者への周知等を通じて、持続可能な京都観光を共に目指しましょう。



京都観光モラル

京都が京都であり続けるために皆様と大切にしていきたいこと

京都の観光業界で働く方々、京都に住まう市民の方々、そして京都を訪れる観光客の皆様とともに、思いを一つに、未来につなぐ京都観光を創りあげましょう。

地域を思いやる

【行動例】 地域住民にとっての信仰の場では適切に振る舞う



環境・美しい街を守る

【行動例】 ゴミのポイ捨てをしない



人とふれあう

【行動例】 京都の人と話し地域に息づく魅力に触れる

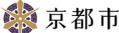


“もしも”に備える

【行動例】 宿泊施設での避難経路、避難場所の事前確認



京都観光の行動基準 全編はこちら ▶


■京都観光行動基準(京都観光モラル) <https://www.moral.kyokanko.or.jp/>

第6章 サステナブル MICE の実践事例の紹介 (2023 ~ 24 年度実績)

京都市及び(公財)京都文化交流コンベンションビューローでは、『サステナブルなMICE開催支援補助制度(2023年度開始)』と『京都らしいMICE開催支援補助制度』を運用し、これらをMICE主催者に活用いただくことで、環境に配慮した会議の開催を促進しています。ここでは、本補助制度を活用したサステナブルMICEの実践事例をご紹介します。

1. コングレスバッグ(伝統産業製品)やエコバッグの作成・配布

コングレスバッグやエコバッグの作成・配布を支援し、参加者に繰り返し利用いただくことで、ビニール袋等のプラスチックごみの削減を促進しています。伝統産業製品を活用いただくことで、文化の継承及び地域経済の活性化にもつながっています。

(実績)

2023~2024年度で合計26件

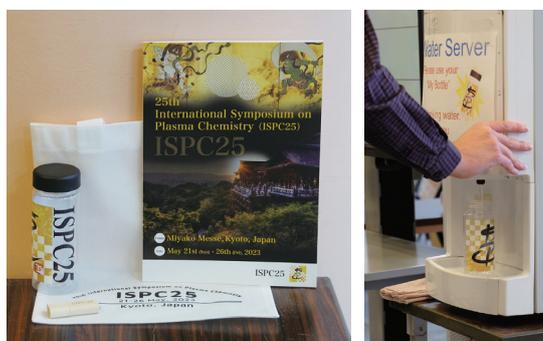


2. マイボトル・マイ箸等のリユース食器の作成・配布

参加者向けにマイボトル・マイカップ・マイ箸などリユース食器の作成・配布を支援し、参加者に繰り返し利用いただくことで、ペットボトルや紙コップ等の廃棄物削減を促進しています。

(実績)

2023~2024年度で合計8件



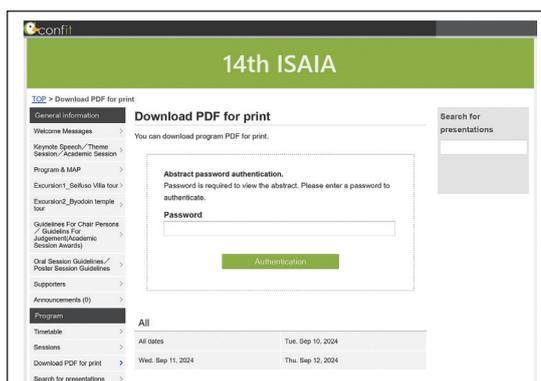
3. ペーパーレス化の取組支援による紙の使用削減

MICE開催に当たっては、これまでプログラム集や論文集等の紙資料を大量に印刷することが環境負荷に繋がっていることが課題とされてきましたが、昨今では、紙資料をデジタル媒体に代替する取組が進んでいます。

デジタルシステム導入などのペーパーレス化の取組を支援することで、紙の使用削減を促進しています。

(実績)

2023~2024年度で合計6件



4. カーボン・オフセット

京都市では、市内の地域や商店街コミュニティの省エネ活動等によって実現したCO₂の削減量をクレジットとして認証して取得し、市内で開催される会議等の主催者等に対して保有するクレジットを売却することで、各会議等から排出されるCO₂排出量のカーボン・オフセットに活用しています。

(実績)

2024年開催の「STSフォーラム(科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム)」の関連イベント(市民公開シンポジウム、歓迎レセプション、エクスカージョン)において、会場の電気使用量、印刷物、食事提供、移動に係るCO₂の排出量を測定し、DO YOU KYOTO?クレジットを活用したカーボン・オフセットを実施しました。



参考文献

- 環境省『イベントにおける環境配慮ガイドライン【プレミアム基準策定ガイドライン別冊】』(2019年9月)
- 公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー『環境に配慮したMICE開催(特に国際会議)にかかる調査』(2023年3月)
- イベント・MICEサステナブル運営コンソーシアム『イベント・MICE関係者のための使いやすいサステナビリティガイドブック』(2024年)
- 公益財団法人 東京観光財団『TOKYO MICEサステナビリティガイドライン』(2019年3月)

環境に配慮したサステナブルMICE京都ガイドライン

令和7年3月発行
京都市印刷物:063169

問合先:公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー
TEL 075-353-3053
HP <https://meetkyoto.jp/ja/>

発行元:京都市環境政策局地球温暖化対策室
〒604-8571京都市中京区上本能寺前町488番地

協力:京都市産業観光局観光MICE推進室

※本ガイドラインは、京都市脱炭素先行地域創出に関するコンソーシアム運営等事業の一環として作成したものです。

